

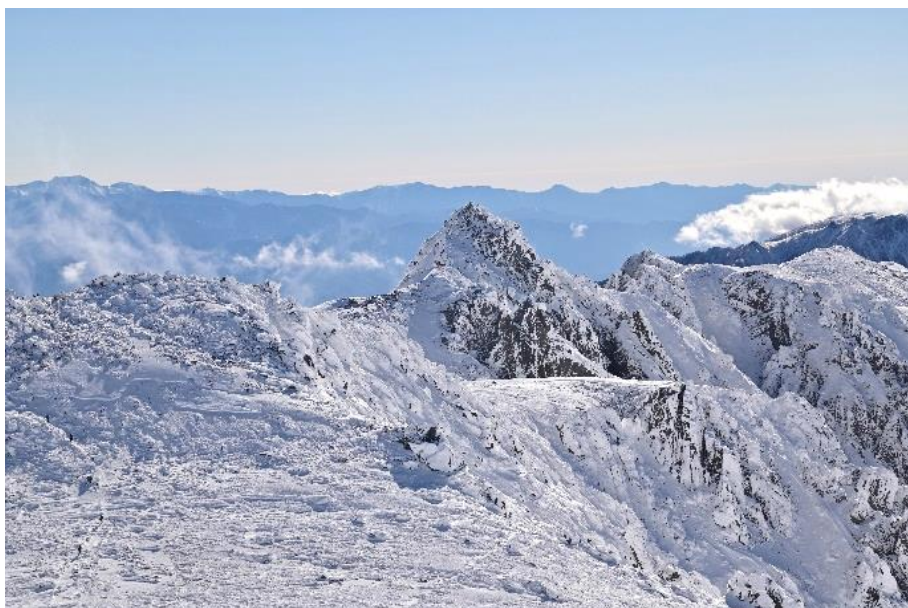
# デンソー山岳部 2022年度 冬山合宿報告書

■山域山名 中央アルプス 木曾駒ヶ岳

■日程 2022年12月29日～30日

■メンバ

鈴木芳(CL、装備)、谷口(SL、食料)、間嶋(記録、気象)



12/29 コガラ登山口- 7合目避難小屋- 麦草岳(途中まで) -7合目避難小屋

12/30 7合目避難小屋- 木曾駒ヶ岳- 7合目避難小屋 - コガラ登山口

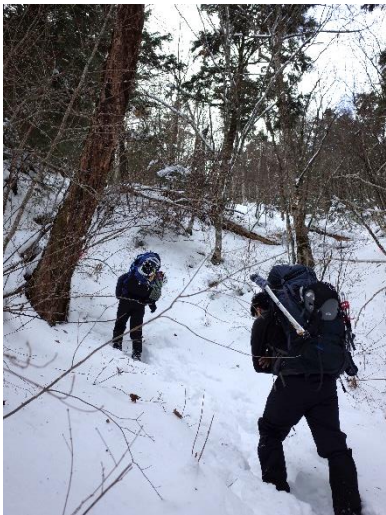
<第1日> 12/29(木) 晴のち雪(谷口 記)

【行動時間】6H

コガラ登山口(10:10) → 4合目(11:10) → 5合目(12:10) → 木曾駒ヶ岳七合目避難小屋(14:45) → 麦草岳方面(16:00) → 木曾駒ヶ岳七合目避難小屋(16:15)

朝7時にのんびりと刈谷を出発、コガラ登山口に10時ころ到着。天気は良く、雪の舞い上がる中央アルプスが国道19号から見えていた。登山口には4台ほど先行パーティの車があった。10:10登山開始。最初は50分ほど林道を歩き、小さな沢を渡渉すると登山道になる。トレースはあるものそこまで固められておらず、そっと足を置かないと登れないような雪面が続く。4合目を過ぎしばらく進んだところでワカンを装着する。ワカン装着に少し手間取ったが、おかげで踏み抜きは減る。ただペースは上がりずなかなか進まない。5合目を過ぎたあたりで下山中のパーティとすれ違う。日帰りに来て小屋の薪ストーブで休憩していたらしく、「小屋はあつためておきましたよ」と話を聞く。小屋の薪ストーブに期待を膨らませ、14:45七合目避難小屋によく到着。5人程度の先行パーティがいた。避難小屋に荷物をデポし、鈴木、谷口は翌日のために麦草岳方面へトレースをつけに行く。50分ほど急な登りを行くと完全なノートレースになったが、その先はハイマツの生えた吹き溜まりの多い雪面で、踏み抜いてしまい進まない。16時でタイムアウトとし、小屋に戻った。麦草岳・牙岩方面はその先トレースがなくアップダウンも激しいため木曾駒ヶ岳への登頂が難しいと判断、断念することとし、明日は夏道から木曾駒ヶ岳を目指すことにした。

小屋で薪ストーブに当たりながら晩御飯を作っていると織機山岳部の二人組が小屋にやってくる。話を聞くと同ルートで木曾駒ヶ岳をめざすとのことなので、明日5人で協力して登ると意気投合する。21時頃薪ストーブの火も収まったので消灯、就寝。



崩れやすいトレースを行く



麦草岳方面



小屋の薪ストーブ、就寝スペース

<第2日> 12/30(木) 晴 (間嶋 記)

【行動時間】10H

木曾駒ヶ岳七合目避難小屋(6:00) → 玉ノ窪小屋(10:10) → 木曾駒ヶ岳(11:10) →  
玉ノ窪小屋(11:45) → 木曾駒ヶ岳七合目避難小屋(13:45) → コガラ登山口 (16:15)

朝5時に起床。準備を整え、夜明け前で真っ暗闇の6時にヘッドライトを点灯して織機山岳部メンバー2名同行の5名で出発した。降雪はなく、風も落ち着いていた。木曾駒ヶ岳方面へのトレースがないなか、方向を確認しながら谷口を先頭に進み、鈴木・沢田(織機)・間嶋・吉田(織機)と続いた。暫くはほぼ平坦な道を進んだ。6時45分頃、ようやく空が明るくなり始め、将基頭山～木曾駒ヶ岳に続く稜線を遠くに見ることが出来た。出発直後は順調であったが、段々とルートが不明瞭となった。ロープやリボンなどの正規ルートが目印となるものが見当たらず、ルートの見定めにかかる時間が長くなり、なかなかペースが上がらない。更にはメンバーのワカンが木の枝に引っ掛かり、1つを失ってしまうアクシデントが発生した。

9時頃、標高 2540m地点にて、続行/撤退を判断する目安としていた10時を前に、進捗の遅さから撤退案が浮上したが、行けるところまで行くことにした。その判断は正しく、更に30分ほど進むと玉ノ窪小屋が視界に入り、目指すべきポイントが明確となった。それから全体のペースが上がった。同時に太陽が稜線の向こう側から顔を出した。初めて浴びる太陽光がメンバーのテンションを上げ、身体を温めた。

10時10分頃、玉ノ窪小屋に到着した。稜線上では雪質が固くなっていたことからアイゼンに履き替えた。小屋から木曾駒ヶ岳山頂に向けては各自淡々と登り、約1時間かけて山頂に到着した。11時10分頃、山頂にはリフト利用者と思いき先客が10人ほどいた。山頂は風が更に強く、あまりの寒さに長居はできなかったが、快晴も相まって風景は素晴らしく、雪を覆った宝剣岳が特に綺麗だった。記念撮影をして行動食を食べたところで下山を開始した。下山時は織機メンバー2名とは別れ、3名での山行となった。往路で付けたトレース歩きはハイペースで進むことができ、2時間ほどで7合目避難小屋に到着した。帰りで回収するはずだったワカンは残念ながら発見できなかった。14時頃、避難小屋内にてコーヒーで一服した後、コガラ登山口に向けて出発した。こちらもハイペースで進んだ。約2時間かけて16時15分にコガラ登山口駐車場に到着した。



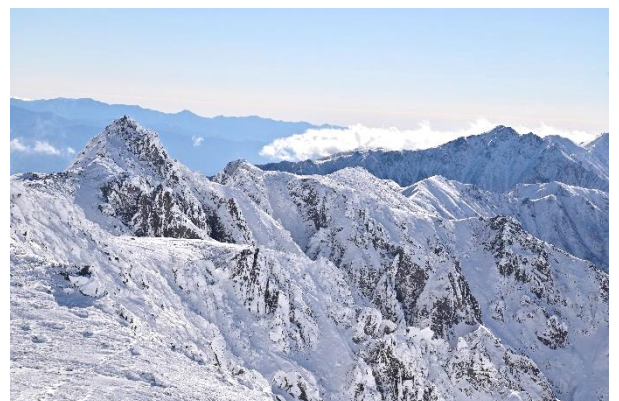
夜明けの稜線



トラバースルートを進む



木曾駒ヶ岳山頂にて



木曾駒ヶ岳山頂からの眺め

【食料】(谷口)

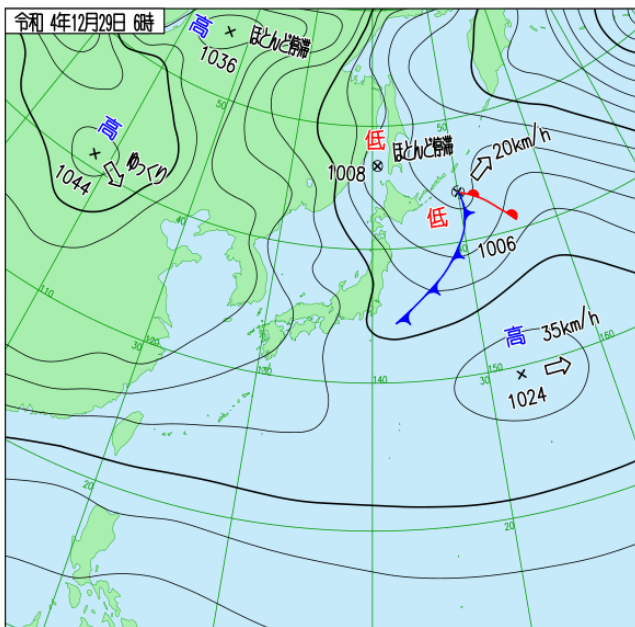
	12/29(木)	12/30(金)
朝食	各自	各自 (お湯は沸かす)
昼食	各自	各自
夕食	鶏ガラ醤油鍋 (豚肉、水餃子) ×の中華麺	—

- 鍋の野菜は主にカット野菜を利用。
- 小屋の薪ストーブは料理に利用するのは難しく、雪を解かすか湯たんぽを作るような加熱しかできない。
- 4.5合目の水場は細くあまり期待できない。小屋には飲み水がポリタンクにためられていたがすべて凍っておりこちらも簡単に利用できない。

【会計】(谷口)

車代 鈴木 10537円  
 食料 谷口 2400円  
 合計 12937円  
 4312円/人

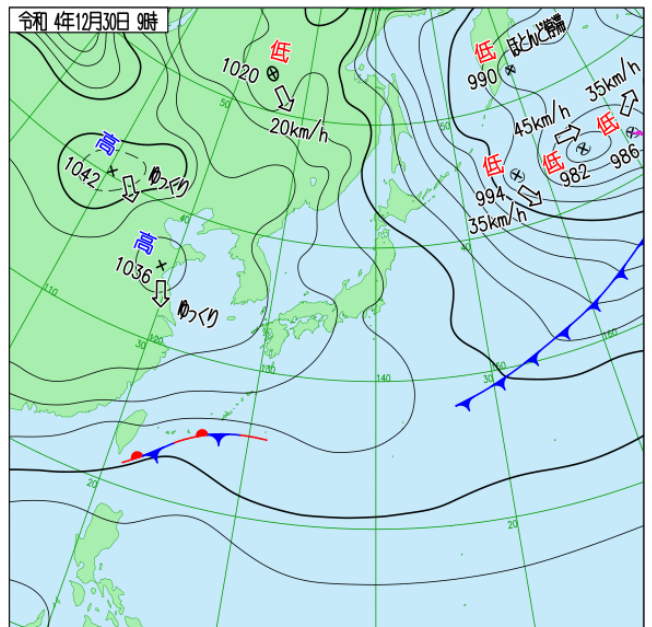
【気象】(間嶋)



<第1日>12/29(木)

晴れのち雪

コガラ駐車場出発時は晴れていたが、樹林帯に差し掛かると曇り、雪がちらつき始めた。



<第2日>12/30(金)

晴れ

一日通して好天。

山頂は風が強く10m/sほどと感じた。

## 【SL所見、感想】谷口

今回は避難小屋泊でCTもそこまで大変ではなく、比較的気楽な山行になると考えていた。しかし二日目は山頂までトレースはなくラッセルが必要で大変だった。最近では雪量が少なく雪上訓練でもワカンを使わない場合が多いが、ワカンの装着、使用感を確認しておくべきだと感じた。

薪ストーブのある小屋の快適さは素晴らしく、十分体力回復でき二日目に繋がっているのだと思う。それでも小屋を出てからなかなか近づかない山頂に焦りを感じ諦めかけたが、メンバーのサポートがあり何とか登頂できた。いつもはロープウェイで気軽に行ける木曾駒ヶ岳の全く違う面を見ることができ、達成感のある良いルートだった。ラッセルで雪まみれになるのは楽しい。やっぱり雪山は良い。

## 【メンバ感想】間嶋

厳冬期の登山は初めてだったが、鈴木さん・谷口さんに道中何度もサポート頂き無事に登ることができた。多くの学びを得た合宿となった。参加できて良かった。

思い出すこと:

初めて使用したワカンをうまく使いこなせず、初日は何度も脚が雪にハマって体力をかなり消耗してしまった。二日目は少しだけ改善した。ガツと雪を蹴り込むことと身体の乗せ方。傾斜ではピッケルを前方に刺し、前傾姿勢を保ったまま身体を乗せるとハマらない(ことが多い)。

- ・雪山を歩くとお尻の筋肉が痛む。
- ・ペットボトルで持参した水分とおにぎりが凍ってしまい、文鎮と化した。
- ・初日はわざわざ持参したカメラ(1.5kg)を使うタイミングと余裕がなく、文鎮と化した。

## 【CL総括】鈴木

本年度は、避難小屋泊とし新人等でも参加しやすいよう計画した。

当日の天候は問題ない状況であったが、24日の寒波での積雪で新雪での山行となり各メンバーそれぞれに苦労があり経験値を上げることが出来た。

計画で予定していた牙岩を断念し一般ルートとなったがノートレースで急なトラバースを進むという気の抜けないルートは、ルートファインディング含め登り甲斐があり十分楽しめた。

今回の山行の経験を今後の活動に活かして欲しいと思います。今回も非常に楽しい山行でした。同行メンバ、サポート頂いたメンバに感謝。また皆で山に行きましょう。